

和歌山病院での実習を終えて



高尾 美穂

今回、和歌山病院で2日間実習をさせていただき、非常に多くのことを学ぶことができました。その中でも特に印象に残っているのが、結核病棟見学と南方院長によるレントゲンの読影についてのセミナーです。

これまで、結核は空気感染をすることから非常に感染力が高く、細心の注意を払わなければいけないものであると考えていました。そのため、結核病棟は閉鎖され、隔離された空間であると暗いイメージを持っていました。しかし、駿田副院長のセミナーで、結核は空気感染はするが飛沫感染はしない、感染者の90%は生涯発症しないといった内容を聞いた上で結核病棟を見学し、これまでのイメージとの違いに驚きました。病棟は空気の流れがコントロールされており、医療従事者側がN95マスクを装着すれば必要以上に感染を恐れなくてもよく、患者さんも多少は行動が制限されてはいますが、他病棟と変わらず自由に行動されていました。

また、南方院長のセミナーでは、これまでの授業や教科書とは全く別の視点からレントゲンの読影方法を教えて下さいました。今まで自分はなぜレントゲンが読めなかったのかを改めて理解し、さらにこれからは何に注目して読影をすればいいかを理解することができました。

和歌山病院での実習は2日間と非常に短い期間ではありましたが、内容は非常に充実しており、とても有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりますが、南方院長、駿田副院長をはじめ、今回の実習にご協力してくださった皆様に改めて感謝申し上げます。